

Sat 9.21 — Mon 9.23

日建・レンタコムカップ

第28回

全日本学生女子ヨット選手権大会

G A M A G O R I

愛知県蒲郡市 豊田自動織機海陽ヨットハーバー

The 28th All Japan
Intercollegiate
Women's Yacht
Championship



Sekiyama Kyoko

2019.9.21-23



特別協賛

日建リース工業株式会社・日建レンタコム株式会社・日建片桐リース株式会社

ご挨拶



日建・レンタコムグループ
代表取締役会長

大会総裁

関山 正



第28回全日本学生女子ヨット選手権大会が昨年に引き続き愛知県蒲郡市の豊田自動織機海洋ヨットハーバーにて開催する運びとなりました。本大会も日建・レンタコムカップグループとしてお力添えができますこと大変喜ばしく思います。

さて、近年のスポーツ界では女子選手のめざましい活躍が大変目立っております。セーリング競技におきましても、本大会の出場経験を持つセーラーたちが世界に羽ばたき、国民の心に残る好成績を上げております。いよいよ来シーズンに控えました2020年東京オリンピックにおきましても、過去にこの大会に出場したセーラーたちが日本代表選手として活躍していただければと、心から願っております。

本大会に出場される女子セーラーの皆様は、夏の暑さや冬の寒さに負けることなく練習に励み、努力を続けてきたことと思います。日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮し、スポーツウーマンシップに則り、セーリングされることを楽しみにしております。

勝ち負けのみにとらわれることなく、蒲郡の海を舞台に互いのスポーツウーマンシップを見せ合い、素晴らしい大会にしてください。そして、陸上に上がれば全国から集まった仲間同士で大いに交流を深め、学生生活の良い思い出の1ページにしていいただければと思います。平成の時代に始まり多くのドラマを残してきたこの素晴らしい大会が、令和になってもまた歴史に残る記録を残し、後世まで引き継がれることを願っております。

最後になりましたが、参加選手皆様のご健闘とご無事をお祈り申し上げますとともに、本大会開催にご尽力いただきました大会関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

ご挨拶



公益財団法人
日本セーリング連盟会長

河野 博文



今年も、日建・レンタコムカップ第28回全日本学生女子ヨット選手権大会が、日建レンタコムグループ各社の特別協賛をはじめ、蒲郡市、蒲郡市教育委員会、愛知県セーリング連盟、日本470協会、日本スナイプ協会他の皆さまの御後援、明治商工株式会社、株式会社伊藤園、蒲郡市観光協会の御協賛など多数の関係者の皆様のご協力をいただき、蒲郡の海において盛大に行われることをお慶び申し上げます。

今回の女子インカレに参加される選手の皆さんは、日頃培ってきた技を発揮して、学生らしく元気にフェアな精神で力いっぱい逞しく、美しく帆走してください。全国から集まった選手同志が競うことで、女子セーラー全体が向上することを期待しております。海では互いに切磋琢磨し、陸に上がってきたときは、運営に携わる方たちに感謝しながら、学生相互の親睦を深めてください。

2020年東京オリンピックに向けて、ヨット界も活動が本格化しています。

今年は、オリンピックのテストイベント、ワールドカップシリーズ江の島大会が開催され、オリンピック種目のレーザ級、470級の世界選手権も日本で開催されました。セーリングのオリンピック日本代表選手も順次決まっております。そして、来年はいよいよオリンピック本番を迎えます。

また、2020年東京オリンピック、さらに2024年パリ・オリンピックに向けては、IOCの方針に基づいてセーリング界においてもジェンダー・イコールが進み、女子セーラーの皆さんの活躍の場がさらに広がりつつあります。そういう意味でも、今回、蒲郡の海に集まった女子セーラーの皆さんが2020年オリンピックに、そしてその先に向けても協力者として、選手として、あるいは大会のレースオフィシャルズとして活躍されることを期待しています。

各大学の関係者の皆様には、インカレのみならず国際大会への選手派遣にも一層熱心に取り組んでいただきたいと思います。

終わりに、この大会が好天に恵まれ、安全に運営され、各大学の女子セーラーが存分に活躍されますことを祈念して、私のご挨拶といたします。

日建・レンタコムカップ「第28回全日本学生女子ヨット選手権大会」の開催に寄せて



全日本学生ヨット連盟
会長

松下 淳一



片山前会長の後任として、本年4月より全日本学生ヨット連盟の会長を務めております松下です。どうぞよろしくお願い致します。

日建・レンタコムカップ「第28回全日本学生女子ヨット選手権大会」が、今年は愛知県蒲郡市の豊田自動織機海陽ヨットハーバーにおいて、盛大に開催されることとなりました。

この全日本学生女子ヨット選手権大会は、四半世紀以上前に、日建・レンタコムグループの関山正会長・恭子夫人のご発案およびご支援によって、学生女子選手の育成とそれを通じた学生ヨットの普及、さらには学生ヨット界の発展を目的として始動しました。誠にありがたいことに、日建・レンタコムグループの特別協賛を頂いて、本大会は今日まで継続して開催することができています。本大会が、全国の女子学生セーラーの目標として、学生女子ヨットひいては全日本学生ヨットを牽引し、その発展に多大な貢献をしてきたことは言うまでもありません。改めまして、日建リース工業株式会社の関山正勝社長をはじめ、グループ関係各位の皆様のお力添えに感謝申し上げる次第です。

この間、大学ヨット部においては、多くの女子選手が入部し、厳しい練習に耐えて、着実に実力を身につけ、全日本インカレにおいても優秀な成績を修めるようになってきました。その中には、リオ五輪470級女子日本代表の吉田愛選手・吉岡美帆選手のような国際レベルの選手も輩出されています。

出場する選手の皆さんは、ここに至るまでに本大会を目指して真剣かつ熱心に練習に取り組んできたものと思います。その練習の成果を、本大会という晴れの舞台で目一杯のびのびと発揮して頂きたいと思います。思った通りの結果を出せたらその達成感は次への糧になりますし、期待した結果が出せなかったら悔しさを次へのバネにしてほしいと思います。また、皆さんがセーラーとして正々堂々と競技に臨むことも大いに期待しています。

最後となりましたが、改めまして、今大会を運営して下さる共催の中部学生ヨット連盟の役員の皆様、学生諸君、そして特別協賛の日建・レンタコムグループ、協賛の明治商工株式会社、株式会社伊藤園、後援の蒲郡市・中部ヨット協会・愛知県ヨット連盟等、多数の関係団体・関係者の皆様のご懇篤なるご協力・ご支援に、全日本学生ヨット連盟を代表して、心より御礼申し上げます。

来年・2020年には東京オリンピックが開催されます。本大会がオリンピックにつながる場となることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

稲葉

蒲郡市長
正吉

「第28回 全日本学生女子ヨット選手権大会」が、ここ蒲郡市の豊田自動織機海陽ヨットハーバーを会場として開催され、全国各地から多くの選手、役員の皆様をはじめとする関係者をお迎えできますことは誠に喜ばしく、地元市長として心から歓迎申し上げます。

蒲郡市は、本州中部に位置し、温暖な気候と美しい風景に恵まれた三河湾国定公園の中心にあり、渥美半島と知多半島に囲まれた海辺の観光地であります。私自身も大学時代からヨット競技に熱中しておりましたので、海に対する思い入れはとても強く、皆様方のように海を愛する人たちが本市の海で白熱したハイレベルなレースを展開していただけることを大変楽しみにしております。

本市はヨット競技と馴染みが深く、世界一周を果たした「エリカ号」の蒲郡帰港を記念して始まった「エリカカップヨットレース」をはじめ、東京オリンピックの前哨戦となるセーリングワールドカップの日本初開催の地になるなど、まさにヨット競技の中心地となっております。

選手の皆様には、日頃鍛えた力と技、練習の成果をこの三河湾を舞台に存分に発揮していただき、素晴らしいレースを展開していただきたいと思います。そして、将来、日本代表選手として日本セーリング界を牽引していただきますことを大いに期待しております。

最後に、本大会開催にご尽力いただきました関係者の皆様方に心から感謝申し上げますとともに、大会のご成功とヨット競技の益々のご隆盛を祈念申し上げまして、私の歓迎のご挨拶とさせていただきます。

愛知県ヨット連盟
会長

小栗 一郎



「日建・レンタコムカップ第28回全日本学生女子ヨット選手権大会」が、愛知県蒲郡市の豊田自動織機海陽ヨットハーバーにおいて開催されるにあたり、愛知県ヨット連盟を代表し、全国各地からお集まりいただく選手、監督ならびに大会関係者の皆様に心から歓迎申し上げます。

このヨットハーバーは、風光明媚な三河湾に面し、豊かな自然に囲まれたセーリングスポーツの一大拠点で、愛知県におけるセーリング競技の普及、振興にも寄与する、たいへん意義深いものです。日本最大級の設備を有するこのヨットハーバーは、2017年には日本初の「セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会」が開催されました。また、全日本学生ヨット個人選手権大会が毎年開催されるなど学生日本一を決める会場として相応しい場所です。

今回の「日建・レンタコムカップ第28回全日本学生女子ヨット選手権大会」においても、皆様の日ごろの練習の成果を存分に発揮され、本大会が今シーズンの素晴らしいレースの一つとして記憶されるよう願っております。また、ここから日本のセーリング界を牽引し、日本代表として戦える女性セーラーが輩出されることを大いに期待しております。

この蒲郡の歴史や文化、人々に接していただきながら、全国から集まった皆様の交流がさらに深まり、本大会が思い出深い、素晴らしいものとなりますよう、心からお祈り申し上げます。

本大会開催にあたり、ご尽力いただきました関係の皆様に深く敬意を表すとともに、本大会の成功を祈念いたしまして、歓迎の言葉といたします。

全日本学生ヨット連盟
女子委員長

大西 真凜



本年も、日建・レンタコムカップ全日本学生女子ヨット選手権大会を無事に迎えることができました。大会開催にあたり、長きにわたりお力添えを頂いております日建・レンタコムカップグループ関山会長をはじめ、関係者各位に心より感謝申し上げます。今年で28周年を迎える歴史ある大会に全日本学連女子委員長として携わることができましたこと、大変光栄に存じます。

「女子に活躍の場を」という目的から始まった本大会ですが、今では北は北海道から南は九州まで、全水域から多くの女子選手が大会に参加し、高い水準でしのぎを削っております。中には予選敗退して涙をのんだ選手もいるでしょう。見事出場権を獲得した選手の皆様には水域代表として誇りを持って大会に臨んで頂きたいです。男女混合という特殊な競技において、初心者の方でも全日本王者を目指すことができるというのは大きなモチベーションになっているのではないのでしょうか。本大会が学生ヨット界を盛り上げ、ひいてはセーリング界への女性の参入を促進する一翼を担ってくれることを願うばかりです。ぜひこの大会を通して全国の仲間と情報を共有し、交流を深め、有意義な経験をして頂ければ幸いです。

近年では本大会の出場経験を持つ女性セーラーたちが世界を舞台に輝かしい成績を残しております。来る2020年東京オリンピックにも本大会を経験した女性セーラーが日の丸を背負って活躍して頂けることを心から期待しております。

末筆となりましたが、本大会の成功と安全を祈念するとともに、特別協賛、協賛、後援にご協力頂きました各社並びに諸団体の皆様、運営役員の皆様、中部、全日本学生ヨット連盟の皆様に重ねて御礼申し上げます。また、本大会の準備にあたり御指導・ご協力頂きました中部学生ヨット連盟の役員、学生の皆様に心より感謝致します。

中部学生ヨット連盟
女子委員長

兵藤 麗奈



この度、日建・レンタコムカップ第28回全日本学生女子ヨット選手権大会が開催される運びとなりました。大会開催にあたり、大変長きにわたりお力添えを頂いております日建・レンタコムグループ関山会長をはじめといたしまして、多大なるご支援をいただきました関係諸団体、および関係者各位、そして運営を担う役員の皆様に心より感謝申し上げます。

最近では、大学ヨット部員の増加に加え、全日本学生ヨット連盟への新たな大学の加盟など、大学ヨット界は大きな盛り上がりを見せています。

このような中、今年も全国各水域の予選を勝ち抜いた女子セーラーが集まり、大会を開催できること、また携わることができたことを大変嬉しく思います。選手の皆様には本大会で日々の練習の成果を発揮し、悔いのない最高のレースにしていきたいと思います。

また、この大会を通して多くの選手と交流を深め、大学生活の素晴らしい思い出のひとつにしていだけたらと思います。

昨年度に引き続き、今年も活気のある海陽ヨットハーバーでの大会とするために学生の中心として頑張りたいと思います。

最後になりましたが、大会開催にあたり、特別協賛、協賛、後援にご協力頂きました各社並びに諸団体の皆様、運営役員の皆様、中部学生ヨット連盟の皆様に重ねて御礼申し上げます。

大会役員

■大会総裁	関山 正	日建・レンタコムグループ 代表取締役会長
■大会名誉総裁	関山 恭子	日建・レンタコムグループ代表取締役会長 関山正 令夫人
■大会名誉会長	河野 博文	公益財団法人 日本セーリング連盟 会長
■大会会長	松下 淳一	全日本学生ヨット連盟 会長
■大会副会長	倭 千鶴子 宮内 彰夫 市川 隆	全日本学生ヨット連盟 顧問 全日本学生ヨット連盟 顧問 全日本学生ヨット連盟 評議員
■大会名誉顧問	稲葉 正吉 小栗 一朗	蒲安市 市長 愛知県ヨット連盟 会長
■大会特別顧問	杉山 嘉尚	全日本学生ヨット連盟 特別顧問
■大会顧問	関山 正勝 倉岡 龍司 浅沼 正美 大森 道生 青木 久	日建リース工業株式会社代表取締役社長 日建レンタコム株式会社代表取締役社長 日建リース工業株式会社副社長執行役員営業本部長 日建リース工業株式会社執行役員中部エリア統括長 日建リース工業株式会社営業本部・事業開発部部长 日建レンタコムカップ関連大会 事務局長
■大会委員長	坂浦 真希	中部学生ヨット連盟 理事
■大会副委員長	石川 由賀里 鈴木 志寿浦 石倉 俊宏	中部学生ヨット連盟 女子会長 中部学生ヨット連盟 理事 中部学生ヨット連盟 会長
■大会役員	兵藤 麗奈 大西 真凜 戸沢 真矢 亀井 千尋 佐藤佳奈子 上田 瞬平 真野 創太 巖 尚輝 尾井 恵子 渡邊 佳穂 野村 光哉 都田 悠輔	中部学生ヨット連盟 女子委員長 全日本学生ヨット連盟 女子委員長 全日本学生ヨット連盟 委員長 北海道学生ヨット連盟 委員長 東北学生ヨット連盟 委員長 関東学生ヨット連盟 委員長 中部学生ヨット連盟 委員長 近畿北陸学生ヨット連盟 委員長 関西学生ヨット連盟 委員長 中国学生ヨット連盟 委員長 四国学生ヨット連盟 委員長 九州学生ヨット連盟 委員長
■大会参与	森 信和	愛知県ヨット連盟 副会長

競技役員

■レース委員会	委員長 古川 紀恵 副委員長 岡田 彰 委員 中西 真紀 小嶋 光希 朝倉由美香 NRO 石倉 俊宏 事務局 竹内 百合江
■プロテスト委員会	委員長 古川 裕之 委員 水野 秀輝 本多 哲也 山口 泰正 児山 弘昌 小瀬水 健 吉本 昌弘 事務局 酒井 惟司 小野 広喜
■海上運営本部	部長 古川 紀恵 部員 岡田 彰 白川 健一 新美 忠邦 山本 浩資 石黒 裕之 生田真紀夫 近藤真太郎 谷 隆之 伊藤 毅 篠宮 元子 百済 裕人 中溝 晃弘 栃本 彩実 田中 綾子 森岡 美樹 石黒 武志 廣野 晴保 学生部員 大西 智己 田中健太郎 相羽 航平 三好 朝輝 山田 莉大 江口 祐紀 小松 裕汰 濱田 芳樹 大村 光輝 吉岡 翼 高柳 直角 並河 晃器 原田 憲昌 坂倉 海斗 中神 大地 土田 智也 加藤 倭人
■陸上運営本部	部長 中西 真紀 副部長 鶴飼 通夫 部員 森 由美子 加佐原裕美子 学生部員 藤原 啓史 長尾 尚弥 石川 祐輝 菅谷 涼太 中神 大地 嶋田 武流 大崎 歩夢 伊藤 広道 前川 武弘 丸山 貴士 鈴木 大河 中山 朋紀 田中 啓心 甲斐 匠
■記録部	部長 小嶋 光希 副部長 坂井 正和 学生部員 高木 榛名 松嶋 千華 北山 阿廉
■テクニカル委員会	委員長 朝倉由美香 副委員長 生田真紀夫 委員 谷 隆之 学生部員 藤原 啓史 高柳 直角 大村 光輝 斎藤 圭吾 阪倉 海斗 相羽 航平 大西 智己

日建・レンタコムカップ
第28回全日本学生女子ヨット選手権大会

開催地：愛知県蒲郡市 豊田自動織機海陽ヨットハーバー沖
大会期日：2019年9月20日（金）～ 2019年9月23日（月）
共同主催：全日本学生ヨット連盟 中部学生ヨット連盟
公認：（公財）日本セーリング連盟【2019-06】
後援：蒲郡市、蒲郡市教育委員会、中部ヨット協会、愛知県ヨット連盟
日本470協会、日本スナイプ協会
特別協賛：日建・レンタコムグループ 日建レンタコム株式会社 日建リース工業株式会社
日建片桐リース株式会社
協賛：明治商工株式会社 株式会社伊藤園 蒲郡市観光協会
協力：豊田自動織機海陽ヨットハーバー 蒲郡三谷温泉平野屋

レース公示

「SP」レース委員会から審問なしにまたは、プロテスト委員会の審問によりスタンダード・ペナルティーが課せられる。

「NP」艇からの抗議の根拠とはならない。これは規則 60.1(a) を変更している。

1 規則

- 1.1 本大会は「セーリング競技規則 2017-2020」（以下、規則という）に定義された規則を適用する。但しこれらの規則等のうち、本レース公示または帆走指示書（以下指示）によって変更されたものを除く。
- 1.2 規則の定義にある規則(g)には全日本学生ヨット連盟にて入手することができる以下の文書が含まれる。
 - (1) 全日本学生ヨット連盟規約
 - (2) 470 級学連申し合わせ事項
 - (3) スナイプ級学連申し合わせ事項
 - (4) 艇体への大学名表示に関する申し合わせ事項
- 1.3 付則 P の「セール番号」を「セール番号または識別番号」に置き換え適用する。
- 1.4 SCIRA 規則の「国内及び選手権大会の運営規定」は、同規定 9.1 に定められたレースを行う最大風速に関する規定を除き適用されない。

2 競技種目

470 級、スナイプ級

3 資格及び参加申し込み

3.1 参加資格

- (1) 加盟大学に学籍があり、入学してから4年以内の女子で、エントリー表に登録済であること。
- (2) 複数の艇へのエントリーは認めない。
- (3) 選手及び監督・コーチは、申込時点で2019年度（公財）日本セーリング連盟会員であること。
- (4) スナイプ級の選手は申込時点で2019年度 SCIRA 登録済であること。

- (5) 各水域学生ヨット連盟の推薦を得た加盟大学のチームであること。
 (6) スポーツ安全保険（人身・物損補償）相当の保険に加入していること。
 (7) 各水域の推薦枠は両クラスとも、各水域の予選エントリー数のパーセンテージにより与える。詳細については以下のとおりとする。

予選エントリー数	推薦枠数
7 艇以下	全艇
8 艇以上 14 艇以下	予選エントリー数の 80%、小数点 1 位を繰り上げた艇数
15 艇、 16 艇	12 艇
17 艇以上	予選エントリー数の 70%、小数点 1 位を繰り上げた艇数

※但し、参加艇数が各クラス 35 艇に満たない場合は、各水域の代表者の推薦により大会会長の承認を得た上で、エントリーを認める場合がある。

3.2 エントリー

エントリーは、各艇ヘルムスマン 1 名、クルー 2 名以内とする。

3.3 参加申し込み

- (1) 参加資格のあるチームは、申し込み書類一式を参加料の振り込みを含め 2019 年 7 月 16 日(火) 必着で下記メールアドレスに送ることにより参加申し込みすることができる。但し参加申込書 3(支援艇許可申請書)は、大会受付まで受付を行う。

①参加申込書 1、参加申込書 2（競技者名簿）、参加申込書 3（支援艇許可申請書）。

※1. Excel 形式のまま提出のこと。参加申込書 3(支援艇許可申請書)を大会受付で提出する場合は、印刷し提出すること。

2. スナイン級の競技者は、SCIRA 会員番号を参加申込書 2 に記載のこと

②参加料の振込み書の写し。

③参加申込書に記載した競技者全員および監督、コーチが『2019 年度(公財)日本セーリング連盟』の会員であることの証左。

これは(公財)日本セーリング連盟のホームページよりダウンロードすることができる。

- (2) 送付先は右のとおり。 全日本学生ヨット連盟 女子委員長

E-mail: 28th.joshi.yacht@gmail.com

4 参加料

1 艇 20,000 円 識別番号料 2,100 円
 振込先は右のとおり。 三菱 UFJ 銀行 松阪支店 店番 532 普通口座 0090156
 中部学生ヨット連盟 会長 石倉 俊宏

振込は個人名ではなく、大学名とすること。

上記参加料には、大会期間中の 9 月 21 日から 9 月 23 日の給水設備使用料が含まれるが、大会期間中分を含めて豊田自動織機海陽ヨットハーバーでの艇保管料は含まれない。

豊田自動織機海陽ヨットハーバーでの艇保管料及び、大会期間外の給水設備使用料は、各チームの責任でヨットハーバー事務室に支払うこと。

5 使用艇、セール

5.1 使用艇

- (1) 470 級は 2019 年団体登録を完了し、かつ本大会の大会計測を完了していること。
- (2) スナイプ級は 2019 年度 SCIRA 登録が完了し、かつ本大会の計測を完了していること。
- (3) 艇は原則自己所有艇とし 1 艇の予備艇を認める。主催団体が認めた場合は参加者がチャーターした艇も可とする。470 級およびスナイプ級のチャーター艇は学連登録艇に限る。
- (4) [DP]470 級、スナイプ級の艇体には【添付図 A】に示す『艇体への大学名表示に関する学連申し合わせ事項』に定められた表示をすると共に、レース委員会が準備した識別番号を指定した位置に貼り付けしなければならない。
- (5) 艇の交換は破損による場合のみとし、事前にテクニカル委員会の許可を得なければならない。新たに使用する艇は大会計測を完了していなければならない。

5.2 セール

- (1) 両クラスとも、1 艇に 1 セットのセールの登録、および 1 セットの予備セールの登録を認める。
- (2) 470 級のセールは 2019 年の各水域での大会計測を完了していなければならない。
また 470 クラス協会に登録された艇以外のセール番号を使用してはならない。メイン・セールとスピナーカーのセール番号は同一でなければならない。
- (3) スナイプ級のセールは 2019 年の各水域での大会計測を完了していなければならない。
また 2019 年度 SCIRA に登録済の艇以外のセール番号を使用してはならない。
- (4) 両クラスとも予備セールを含み、同一のセール番号を複数の艇で登録してはならない。
- (5) セールの交換は破損による場合のみとし、テクニカル委員会の許可を得なければならない。

6 日程

6.1 日程

9 月 20 日 (金)	10:00 ~ 16:00	受付・登録、計測
9 月 21 日 (土)	08:00 ~ 09:30	受付・登録、計測
	09:45 ~ 10:15	ブリーフィング
	11:00 ~ 11:30	開会式
	13:00	470 級予告信号
	引き続き	スナイプ級予告信号
9 月 22 日 (日)	08:15 ~ 08:30	ブリーフィング
	09:30	470 級予告信号
	引き続き	スナイプ級予告信号
9 月 23 日 (月)	08:15 ~ 08:30	ブリーフィング
	09:30	470 級予告信号
	引き続き	スナイプ級予告信号
	16:00	表彰式 レセプション・パーティー

9 月 21 日 (土)、22 日 (日) は 15:31 より後に、23 日 (月) は 11:31 より後に予告信号は発せられない。

6.2 予定されるレース数は次のとおりとする。

日程	470 級	スナイプ級
9 月 21 日 (土)	3	3
9 月 22 日 (日)	3	3
9 月 23 日 (月)	2	2
合計	8	8

本大会で計画された全レースを行うため、当日までの計画に対して+1 レースを越えないまで、レースを前倒しで行う場合がある。

7 受付

参加チームは次の書類等を提出し受付を完了させなければならない。

- ① 470 級は INTERNATIONAL 470 CLASS MEASUREMENT FORM (原本)の提示。

ただし、2011 年 7 月 29 日以前に登録された艇は、上記に加え計測登録証明書の提示。

- ② スナイプ級はスナイプ級計測証明書の提示。

8 計測

- 8.1 艇は計測前に、受付時に交付される識別番号を【添付図 A】にある位置に貼りつけなければならない。

- 8.2 参加チームは、艇体およびセールについて、イクイップメント・インスペクターとして指定する各水域のオフィシャル・メジャラーによる本大会の事前計測を完了したことを証明する「大会計測完了証明書」を提示するとともに、「大会計測済スタンプ」の確認を受けなければならない。

- 8.3 本大会の事前計測は、2019 年 8 月 12 日(月)以降に実施されなければならない。

「大会計測完了証明書」発行後は艇の修理・改造を行ってはならず、修理・改造を行った場合は、再計測を受けなければならない。

- 8.4 各日の最後のレース終了後、海上にてテクニカル委員会に呼ばれた艇は、指示に従いインスペクションを受けなければならない。

9 帆走指示書

- 9.1 帆走指示書は 8 月 31 日(土)までに、出場大学に送付するとともに、愛知県ヨット連盟のホームページに掲示する。

- 9.2 帆走指示書に対する事前質問は、9 月 14 日(土)までに参加申込み送付先にメールで提出のこと。

- 9.3 事前質問に対する回答は、9 月 21 日(土)のブリーフィングまでに公式掲示板に掲示する。

10 開催地

【添付図 B】はレース・エリアの場所を示す。

11 コース

【添付図 C】の見取図は、レグ間のおよその角度、通過するマークの順序、それぞれのマークを通過する側を含むコースを示す。

12 得点

- 12.1 大会の成立には、1 レースを完了することが必要である。
- 12.2 艇のシリーズ得点は、完了したレースが 5 レース以下の場合、全レースの合計得点とする。
6 レース以上完了した場合、最も悪い得点を除外したレース得点の合計とする。
- 12.3 総合順位は、両クラスに各 1 艇以上参加した大学を対象とする。
各大学で最も順位の良かった両クラス 1 艇ずつのシリーズ得点を加算して総合得点とし、総合得点の少ない大学を上位とする。
- 12.4 2 大学以上でタイがある場合、総合得点の対象となった両クラスの各々のレースの得点を合算したものを規則 A8 にある得点に読み替えてタイを解く。また、470 級とスナイプ級で完了したレース数が異なる場合、どちらかのクラスのみ完了したレースの得点は用いない。

13 支援艇

- 13.1 支援艇とは、規則の定義にある支援者が乗艇する全ての艇を指す。
- 13.2 支援艇のある大学は、受付け時に「参加申込書 3」として提出した「支援艇許可申請書」の写しを提示することにより、「支援艇許可書」を受け取ることができる。
- 13.3 「NP」「DP」豊田自動織機海陽ヨットハーバー内では、支援艇は、主催団体が指定する桟橋以外に係留してはならない。
- 13.4 「NP」「DP」支援艇は、乗員の乗降、機材の積込み、積下ろしのために一時的に豊田自動織機海陽ヨットハーバーに入港する場合でも、ヨットハーバー事務室にて所定の手続きを行い、使用料を支払わなければならない。一時的に入港した支援艇は、乗員の乗降、機材の積込み、積下ろしが完了次第、速やかに出港しなければならない。
- 13.5 「NP」「DP」支援艇は水上にいる間、大会本部で貸与する『識別用リボン』を水面より 1.5m 以上の高さに掲揚するとともに、大会本部で支給される『支援艇許可書』を外部より視認できるように掲示しなければならない。

14 賞

賞は次のように与えられる。

総合	総合 1 位	全日本学生ヨット連盟会長盾（持ち回り） 総合優勝旗（持ち回り）、賞状、賞杯総合
	2 位、3 位	賞状、賞杯
クラス	各クラス 1 位	関山杯、優勝旗（持ち回り）、賞状、賞杯
	各クラス 2 位、3 位	賞状、賞杯
	各クラス 4 位-6 位	賞状
最優秀選手賞		関山恭子記念賞旗（持ち回り）

15 責任の否認

この大会の競技者は自分自身の責任で参加する。規則 4『レースをすることの決定』参照。

主催団体は、大会の前後、期間中に生じた物的損害または人身傷害もしくは死亡によるいかなる責任も負わない。

16 大会期間中の肖像権

大会期間中の艇、選手に関する写真、ビデオ等の全ての著作物、映像に関する権利は、主催団体に帰属する。これらは主催団体のホームページや SNS に掲載されることがある。これらは、参加申し込みをした時点で同意したものとみなす。

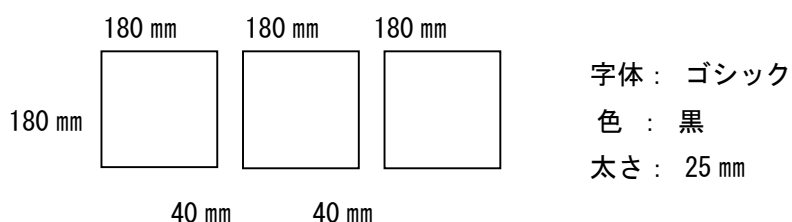
17 問合せ先

問合せ先は右のとおり。

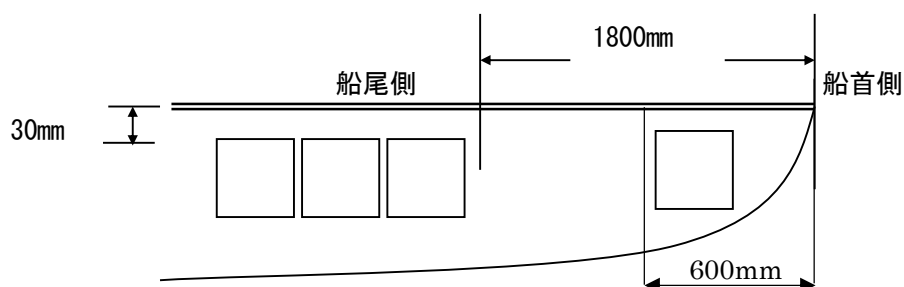
中部学生ヨット連盟 女子委員長 兵藤 麗奈 e-mail : chubu.icyf@gmail.com

【添付図 A】 艇体および識別番号貼付位置

(1) 470 級、スナイプ級



- ・ 大学名シールは、各大学（または水域）で作成する。
- ・ 貼付位置は前部デッキのステムから後方 1800 mm より後ろ近い部分の両側板部分とする。
ただし、文字の大きさは 180mm 以上であれば任意とし、それに伴った字間、太さの変動は認める。
また、艇体が濃色で黒色では見えにくい場合に限り、白色で表示することも可とする。
- ・ バウの先端から、600 mm の間に識別番号を張り付ける。
470 級: 黒色 スナイプ級: 赤色



* 取り付け位置の若干の誤差は許容する。

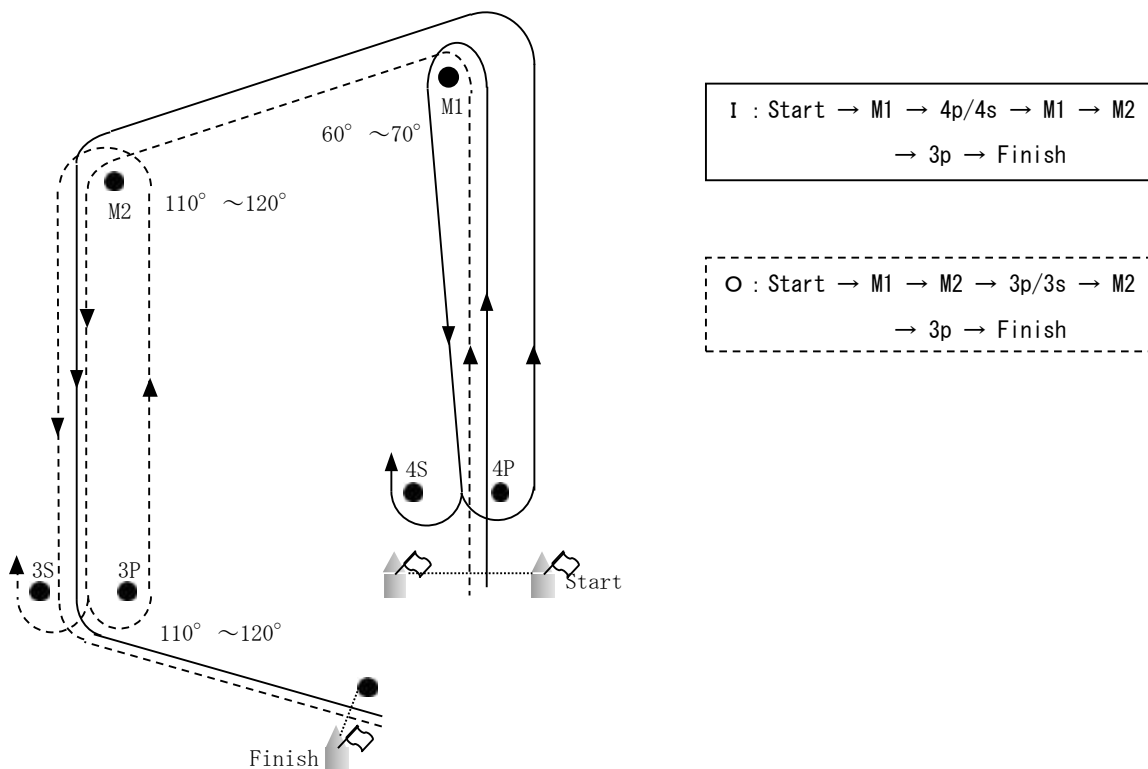
【添付図B】 レースエリア



N 34. 47. 183 E 137. 16. 017 を中心とした、φ1.4NM をレース海面とする。

【添付図C】：コース見取り図

470 級、スナイプ級



日建・レンタコムカップ
第28回全日本学生女子ヨット選手権大会

大会期日：2019年9月20日（金）～ 2019年9月23日（月）

共同主催：全日本学生ヨット連盟・中部学生ヨット連盟

帆走指示書

「SP」レース委員会から審問なしにまたは、プロテスト委員会の審問によりスタンダード・ペナルティーが課せられる。

「NP」艇からの抗議の根拠とはならない。これは規則 60.1(a) を変更している。

1. 規則

- 1.1 本大会は、『セーリング競技規則 2017-2020』（以下、規則という）に定義された規則を適用する。
- 1.2 規則の定義にある規則(g)には全日本学生ヨット連盟で入手することができる以下の文章が含まれる。
 - (1) 全日本学生ヨット連盟規約
 - (2) 470 級学連申し合わせ事項
 - (3) スナイプ級学連申し合わせ事項
 - (4) 艇体への大学名表示に関する申し合わせ事項
- 1.3 付則 P の「セール番号」を「セール番号または識別番号」に置き換え適用する。
- 1.4 SCIRA 規則の「国内及び国際選手権大会の運営規定」は、同規定 9.1 に定められたレースを行う最大風速に関する規定を除き適用されない。

2 競技者への通告

競技者への通告は、大会本部東側に設置された公式掲示板に掲示される。

「NP」 また Facebook 上に設けられる、第 28 回全日本学生女子ヨット選手権大会サイトにアップされる。

3 帆走指示書の変更

帆走指示（以下、『指示』という）の変更は、それが発効する当日の 08:30 までに掲示される。ただし、レース日程の変更は、前日の 17:30 までに掲示される。

4 陸上で発する信号

- 4.1 陸上で発する信号は、大会本部南側に設置された信号柱に掲げられる。
- 4.2 「NP」「SP」陸上で音響信号 1 声と共に D 旗が掲揚されるまで、艇は出艇してはならない。予告信号は予定時刻以前、または D 旗が掲揚された後 30 分以内に発せられることはない。D 旗がクラス旗の上に掲揚された場合、当該クラスのものに適用する。
- 4.3 予告信号予定時刻の 30 分前までに D 旗が掲揚されない場合、そのレースのスタートは時間に定めなく延期されている。

5 レース日程

5.1 予定されるレース日程とレース数は次のとおりとする。

日程	470 級	スナイプ級
9 月 21 日 (土)	3	3
9 月 22 日 (日)	3	3
9 月 23 日 (月)	2	2
合計	8	8

5.2 470 級の最初の予告信号は、9 月 21 日は 13:00、9 月 22 日・23 日は 09:30 を予定しており、スナイプ級の予告信号は、470 級のスタート信号後に適宜発せられる。

5.3 1 つのレースまたは一連のレースが間もなく始まることを注意喚起するために、予告信号を発する少なくとも 5 分以前に音響信号 1 声とともにレース委員会信号艇に『オレンジ色のスタート・ライン旗』を掲揚する。

5.4 9 月 22 日・23 日は 15:31 より後に、24 日は 11:31 より後に予告信号は発せられない。

本大会で計画された全レースを行うため、当日までの計画に対して+1 レースを越えないまで、レースを前倒しで行う場合がある。

5.5 9 月 21 日は 09:45 より、9 月 22 日・23 日は 08:15 より、豊田自動織機海陽ヨットハーバー東棟 E5, E6 会議室にてブリーフィングを行う。

6 クラス旗

クラス旗は次のとおりとする。

クラス	クラス旗
470 級	白地に青色の 470 級の形象
スナイプ級	白地に赤色のスナイプ級の形象

7 レース・エリア

【添付図 A】に、レース・エリアの位置を示す。

8 コース

8.1 【添付図 B】に、レグ間の概ねの角度、通過するマークの順序、それぞれのマークをどちら側に見て通過するかを含むコースを示す。

8.2 予告信号以前に、レース委員会信号艇に艇が帆走するコースおよび、最初のレグのおおよそのコンパス方位を掲示する。

9 マーク

9.1 マーク 1. 2. 3p. 3s. 4p. 4s はオレンジ色の円錐形ブイとする。

9.2 スタート・マークは、スターボードの端にあるレース委員会信号艇と、ポートの端にあるレース委員会艇とする。

9.3 フィニッシュ・マークは、スターボードの端にあるレース委員会艇と、ポートの端にあるレース委員会艇、またはオレンジ色の円筒形ブイとする。

9.4 指示 11 に規定する新しいマークは、緑色の円錐形ブイとする。

10 スタート

- 10.1 スタート・ラインは、スタート・マーク上で『オレンジ色のスタート・ライン旗』を掲揚しているポールの間とする。
- 10.2 スタート信号の 4 分以降にスタートする艇は、審問なしに『スタートしなかった「DNS」』と記録される。これは規則 A4. A5 を変更している。
- 10.3 レースが再スタートまたは再レースとなった場合に掲示される規則 30.4 に抵触した艇の識別番号は、次のレースの予告信号以前にレース委員会信号艇のスターンに掲示される。これは規則 30.4 を変更している。
- 10.4 「NP」「DP」 他のレースの手順の間、予告信号が発せられていない艇は、【添付図 C】に示されたスタート・エリアを回避していなければならない。
- 10.5 スタートがゼネラル・リコールとなった場合、艇に注意喚起するために、レース委員会信号艇以外のレース委員会艇に音響信号無しで第 1 代表旗を掲揚する場合がある。信号艇以外のレース委員会艇での第 1 代表旗降下には、レース信号第 1 代表旗の「予告信号は、降下の 1 分後に発せられる。」の意味は持たない。

11 コースの次のレグの変更

コースの次のレグを変更する為に、レース委員会は新しいマークを設置し(またはフィニッシュ・ラインを移動し)実行できれば直ぐに元のマークを撤去する。その後の変更で新しいマークを置き換える場合、そのマークは元のマークで置き換える。

12 レースの中止

スタートしたレースを中止する場合、艇に注意喚起するために、レース委員会信号艇以外のレース委員会艇に音響信号と共に N 旗を掲揚する場合がある。信号艇以外のレース委員会艇での N 旗の降下には、レース信号 N 旗の「予告信号は、降下の 1 分後に発せられる。」の意味は持たない。

13 フィニッシュ

フィニッシュ・ラインは、スターボードの端にあるフィニッシュ・マーク上のオレンジ色旗を掲揚しているポールと、ポートの端にあるフィニッシュ・マーク上のオレンジ色旗を掲揚しているポールまたは、ポートの端のフィニッシュ・マークの間とする。

14 ペナルティー

「NP」「DP」規則 44.1 に基づきペナルティーを履行した艇は、プロテスト委員会事務局で入手できる所定の用紙に記入のうえ抗議締切時間内にプロテスト委員会事務局へ提出しなければならない。



15 タイム・リミットとターゲット・タイム

15.1 タイム・リミットとターゲット・タイムは次のとおりとする。

クラス	レースの タイム・リミット	マーク 1 の タイム・リミット	レースの ターゲット・タイム	フィニッシュ ウィンドウ
470 級	75 分	25 分	45 分	15 分
スナイプ級	80 分	25 分	50 分	15 分

- 15.2 マーク 1 のタイム・リミット内に 1 艇もマーク 1 を通過しそうにない場合、レース委員会はそのレースを中止することができる。この項は規則 32.1 を変更している。
- 15.3 ターゲット・タイムどおりとならなくても、救済の根拠とはならない。これは規則 62.1(a) を変更している。
- 15.4 最初の艇（規則 30.3 または規則 30.4 が用いられた場合、各々に違反しない最初の艇）がフィニッシュ後から起算されるフィニッシュ・ウィンドウ以内にフィニッシュしない艇は、審問なしに『フィニッシュしなかった「DNF」』と記録される。この項は規則 35、A4 及び A5 を変更している。

16 抗議と救済要求

- 16.1 抗議書はプロテスト委員会事務局で入手できる。抗議、救済要求、審問の再開要求は、適切な時間内にプロテスト委員会事務局に提出されなければならない。
- 16.2 抗議締切時間は、その日の当該クラスの最終レース終了後、またはレース委員会が「本日これ以上レースを行わない」の信号を発した後 60 分とする。但しプロテスト委員会の裁量によりこの時間を延長する場合がある。
- 16.3 レース委員会、プロテスト委員会またはテクニカル委員会からの抗議を規則 61.1(b) に基づき被抗議艇に伝えるために、当該委員会は抗議の通告を掲示する。
- 16.4 審問の場所及び時刻、抗議の当事者、または証人として指名された者を競技者に知らせるために、抗議締切時刻後 15 分以内に通告を掲示する。
- 16.5 審問は基本的に受付順におこなう。当事者はプロテスト委員会事務局が指定する待機所にて待機していなければならない。
- 16.6 規則 42 違反に対するペナルティーを課せられた艇のリストは、その日のレース終了後掲示される。
- 16.7 大会最終日では、プロテスト委員会の判決に基づく救済要求は、判決の掲示から 20 分以内に提出されなければならない。この項は、規則 62.2 を変更している。

17 得点

- 17.1 大会の成立には、1 レースを完了させることが必要である。
- 17.2 艇のシリーズ得点は、完了したレースが 5 レース以下の場合、全レースの合計得点とする。
- 6 レース以上完了した場合、最も悪い得点を除外したレース得点の合計とする。

17.3 総合順位は、両クラスに各1艇以上参加した大学を対象とする。

各大学で最も順位の良かった両クラス1艇ずつのシリーズ得点を加算して総合得点とし、総合得点の少ない大学を上位とする。

17.4 2 大学以上でタイがある場合、総合得点の対象となった両クラスの各々のレースの得点を合算したものを規則 A8 にある得点に読み替えてタイを解く。また、470 級とスナイプ級で完了したレース数が異なる場合、どちらかのクラスのみ完了したレースの得点は用いない。

18 安全規定

18.1 「NP」「SP」出艇申告と帰着申告は次のとおりとする。

(1) 出艇しようとする競技者は、その日の 08:00 から最初の D 旗掲揚予定時刻までの間に大会陸上本部前に用意される『出艇申告書』にサインした後に出艇しなければならない。

(2) 帰着した競技者（レース委員会が正当な理由があると認めた場合は代理人）は、帰着後速やかに大会陸上本部前に用意される『帰着申告書』にサインしなければならない。その日の最終レース終了後の帰着申告は、その日の当該クラスの抗議締切時間までに完了させなければならない。

(3) 帰着申告後に再出艇する場合、（『AP/H 旗』、『N/H 旗』での帰着、またはリタイアによる帰着後の再出艇）は随時出艇申告を受付ける。出艇申告無しの再出艇は認められない。

18.2 「NP」「SP」リタイアしようとする艇は、速やかにレース・エリアを離れ、可能な限りリタイアの意思を近くのレース委員会艇に伝えなければならない。競技者は指示 18.1(2)に従い帰着申告を行った後、速やかに大会陸上本部で入手できる『リタイア報告書』を提出しなければならない。

18.3 レース委員会またはプロテスト委員会は、艇が安全に帆走できないと判断した場合、リタイアを勧告することができる。また、艇が緊急救助を必要とするような危険な状態だと判断した場合、強制救助する場合がある。強制救助の判断については、艇からの救済の要求の根拠とはならない。これは規則 60.1(b)を変更している。

18.4 18 の申告に関する手続きに誤りがあった艇に対して、引き続きのレースが行われた場合には指示 18.1(1)の手続きの誤りについてはその直後のレースに、指示 18.1(2)の手続きの誤りについてはその直前のレースにペナルティーを課す。

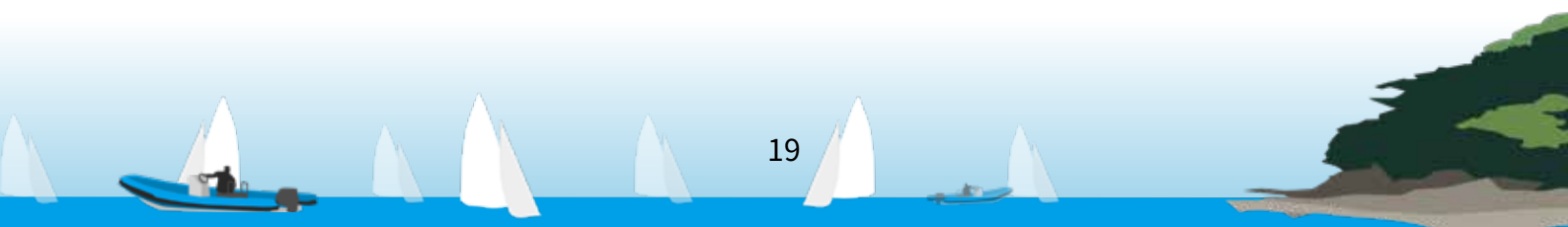
19 乗員表・乗員変更届の提出及び乗員の交替

19.1 「NP」「SP」艇は、その日の最初のレースの『乗員表』を指示 18.1(1)の出艇申告と同時に大会陸上本部に提出しなければならない。

19.2 「NP」「SP」艇は、その日の2レース目以降に乗員を変更する場合は、『乗員変更届』をその都度大会陸上本部に提出しなければならない。海上で乗員を交替した場合は、近くのレース委員会艇に変更がある旨を伝えた後に、指示 19.1(2)の帰着申告と同時に『乗員変更届』を提出しなければならない。

20 「NP」「DP」 装備の交換

20.1 艇は、テクニカル委員会の承諾なしに損傷または紛失した装備の交換をしてはならない。



- 20.2 艇は、陸上で装備を交換する場合は、大会陸上本部で入手できる『装備交換申請書』をテクニカル委員会に提出し、承諾を受けなければならない。
- 20.3 艇は、海上で装備を交換する場合は、近くのレース委員会艇に装備の交換がある旨を伝えた後に、帰着後に『装備交換申請書』をテクニカル委員会に提出し承諾を受けなければならない。

21 装備と計測チェック

- 21.1 艇は、艇または装備が、規則に従っていることを確認するため、いつでも検査されることがある。
- 21.2 艇は水上で、イクイップメント・インスペクターまたはメジャーによる検査のために、直ちに指定したエリアに向かうことを指示されることがある。
- 21.3 帰着後、陸上にて指示された艇は、速やかに計測場所に艇を持ち込まなければならない。

22 運営艇

運営艇の標識は、次のとおりとする。

運営艇	識別旗
レース委員会艇	「C」と白字で記された黒色旗
プロテスト委員会艇	「JURY」と白字で記された赤色旗
レスキュー艇	「RESCUE」と白字で記された緑色旗
テクニカル委員会艇	「MEASURER」と黒字で記された白色旗
メディア艇	「MEDIA」と白字で記された青色旗
VIP 艇	「VIP」と黒字で記された水色旗

23 支援者・支援艇

- 23.1 支援艇とは、規則の定義にある支援者が乗艇する全ての艇を指す。
- 23.2 「NP」「DP」豊田自動織機海陽ヨットハーバー内では、支援艇は、主催団体が指定する栈橋以外に係留してはならない。
- 23.3 「NP」「DP」支援艇は、乗員の乗降、機材の積込み、積下ろしのために一時的に豊田自動織機海陽ヨットハーバーに入港する場合でも、ヨットハーバー事務室にて所定の手続きを行い使用料の支払いをしなければならない。一時的に入港した支援艇は、乗員の乗降、機材の積込み、積下ろしが完了次第、速やかに出港しなければならない。
- 23.4 「NP」「DP」艇の安全な出艇を確保するため、豊田自動織機海陽ヨットハーバーより出艇する支援艇は、『D旗』掲揚後10分間は係留した栈橋から離岸してはならない。
- 23.5 「NP」「DP」支援艇は、水上にいる間、大会陸上本部で貸与する『識別用リボン』を水面より1.5m以上の高さに掲揚するとともに、支給する「支援艇許可書」を目立つように掲示しなければならない。
- 23.6 「NP」「DP」支援艇は、最初にスタートするクラスの準備信号から、全ての艇がフィニッシュするか、もしくはリタイアするか、またはレース委員会が延期、ゼネラル・リコールもしくは中止の信号を発するまで、【添付図 D】が示す艇がレースをしているエリアの外側にいなければならない。
- 23.7 「NP」「DP」支援者は、レース委員会及びプロテスト委員会の無線通信を傍受してはならない。

- 23.8 「NP」「DP」レース委員会艇に『緑色旗』が掲揚された場合、『支援艇は、レースをしているエリアを含む全てのエリアにおいて、危険な状態にある艇を可能な限り速やかに救助しなければならない。』ことを意味する。この場合、指示 23.6 は適用されない。

24 ごみの処分

艇は、ごみを支援艇またはレース委員会艇に渡しても良い。

25 賞

レース公示どおり、賞を与える。

26 責任の否認

競技者は、完全に自己の責任でこのレガッタに参加する。規則 4「レースすることの決定」参照。主催団体は、レガッタ前、レガッタ中またはレガッタ後と、関連してこうむった物的損傷または人身傷害もしくは死亡に対するいかなる責任も負わない。

27 その他

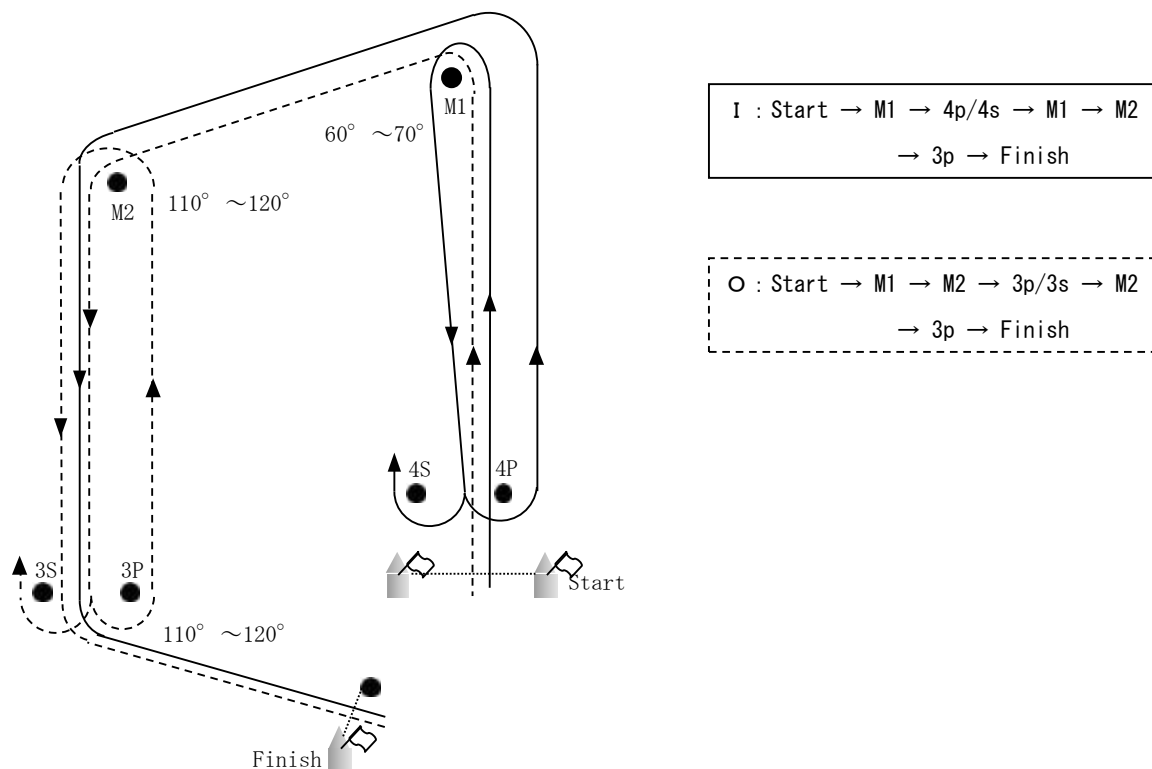
- 27.1 [DP][NP]競技者・支援者は、大会役員・競技役員の合理的な理由に基づく指示に従わなければならない。
- 27.2 [DP][NP]競技者は、大会期間中に大会委員会の許可を得ない限り、ハーバー建物内やセンタープラザでの艀装・修理・セールの片づけ等の作業を行ってはならない。

【添付図 A】 レース・エリア



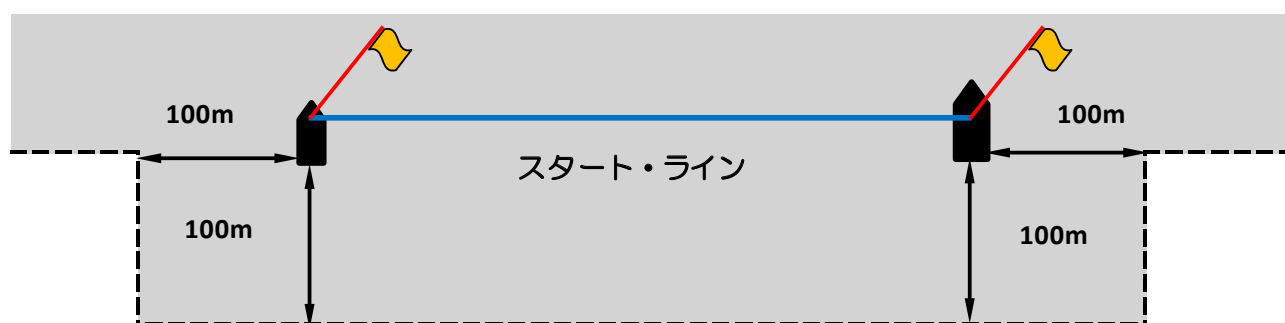
N 34. 47. 183 E 137. 16. 017 を中心とした、φ1.4NM をレース海面とする。

【添付図B】コース図



【添付図C】スタート・エリア

指示 10.4 にて規定されている「スタート・エリア」を点線で示す。

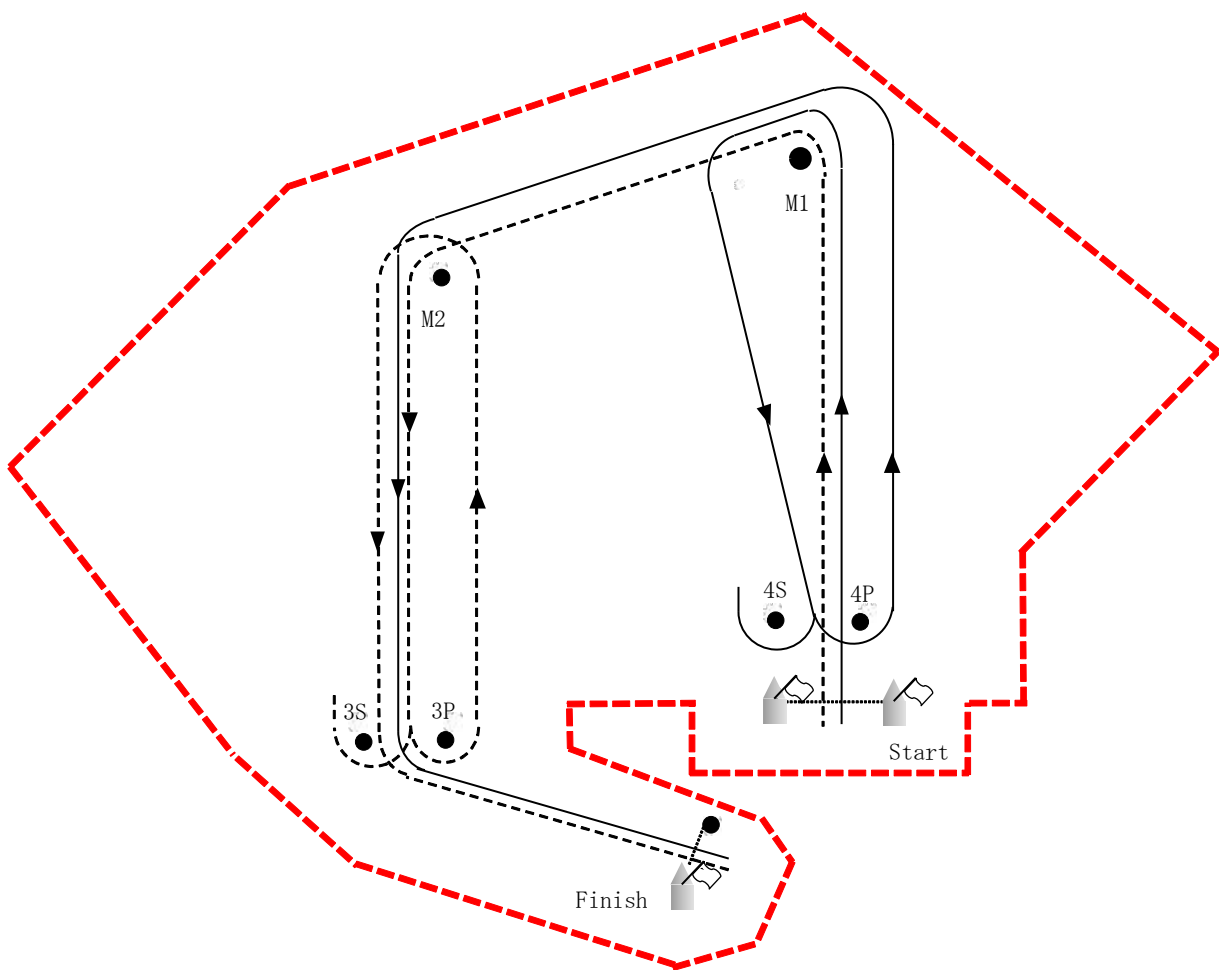


【添付図 D】 レース・エリア

指示 23.6 にて規定されている「艇がレースをしているエリア」

支援者は、レース中以下の図に示す点線の内側に入ってはならない。

この点線は、レース委員会艇、スタート・ライン、フィニッシュ・ライン、マーク及び艇が帆走するであろう位置から距離 100m を示している



会場案内図

豊田自動織機 海陽ヨットハーバー

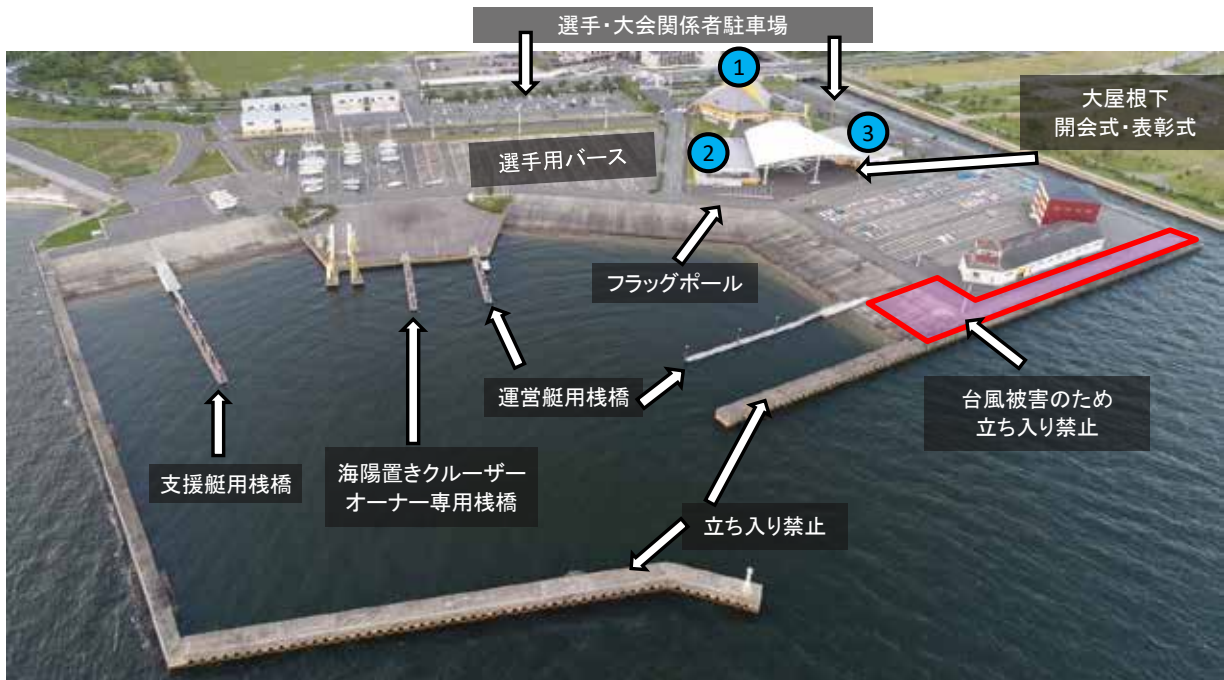
〒443-0014 愛知県蒲郡市海陽町一丁目7番地

TEL:0533-59-8851 FAX: 0533-59-8185

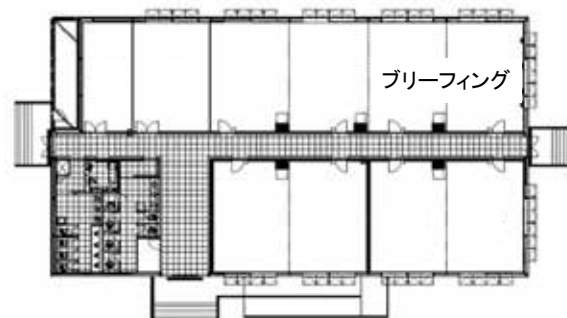
東名高速道路「音羽蒲郡 I.C」から「オレンジロード」経由にて約 30 分



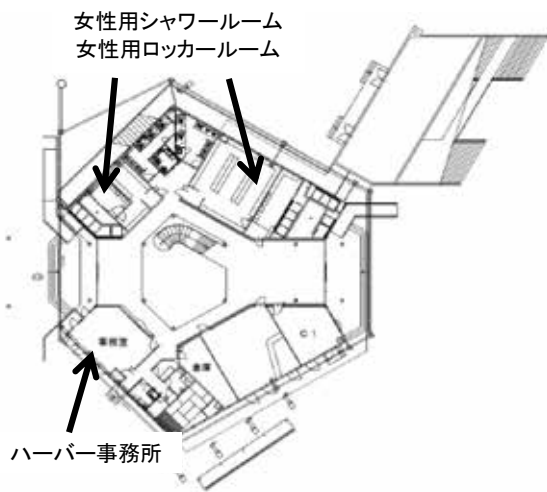
※豊田自動織機 海陽ヨットハーバーのパンフレットより抜粋



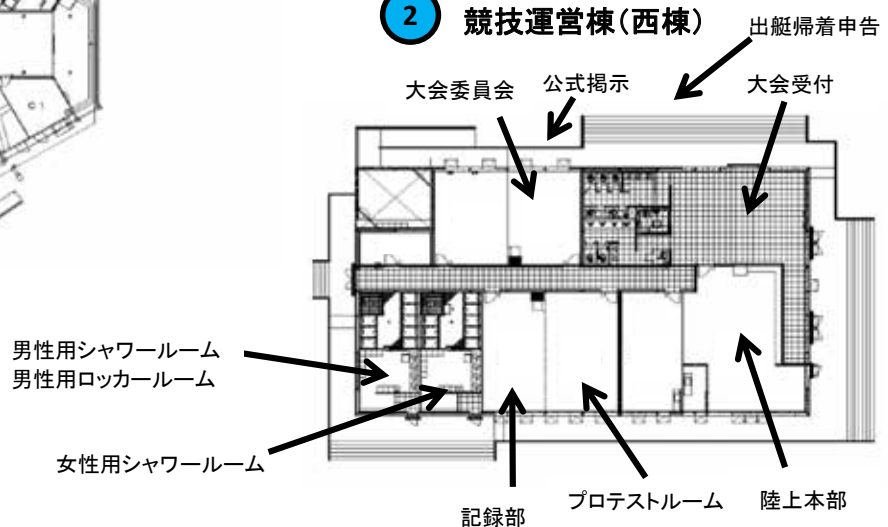
③ 会議メディア棟(東棟)



① クラブハウス中央棟 1階



② 競技運営棟(西棟)



470 ENTRY LIST

水域	エントリー No.	大学名	艇体No	セーラーNo	選手		
					スキッパー	クルー①	クルー②
北海道	1	小樽商科大学	4192	4531	飯田可奈子	紅露日菜子	
	2	北海道大学	3646	4424	大西舞	小林可怜	
	3	北海道大学	3560	4161	川端美有	堤麻理子	
東北	4	東北大学	3396	4536	高橋華子	宮島千晶	
関東	5	学習院大学	4232	4232	高橋紅珠	藤野理華	
	6	神奈川大学	4607	4607	小西彩香	上田実優	
	7	神奈川大学	4438	4438	工藤綾夏	黒川祐羽	
	8	首都大学東京	4676	4676	武石早代	小林あおい	
	9	中央大学	4484	4429	桑野絵里佳	吉田鈴奈	
	10	東京大学	4452	4452	小野万優子	下重智華子	
	11	東京海洋大学	4572	4572	松田みなみ	高木葉好	
	12	東京工業大学	4282	4282	佐藤美沙希	稲葉千尋	
	13	東洋大学	4473	4473	土屋茉奈花	川上歩美	
	14	日本大学	4662	4662	鈴木せいら	工藤彩乃	坂井友里愛
	15	日本大学	4574	4574	中山由菜	鴻上ひかる	
	16	法政大学	4716	4716	赤嶺華歩	和田萌	
	17	法政大学	4501	4501	伊藤七瑠	盛田冬華	
	18	明海大学	4566	4566	三橋菜葉	ラミレス・イオナ・アラナ	長岡叶子
	19	明海大学	4402	4402	花井静亜	青木美優	
	20	立教大学	4406	4406	吉澤凜花	藤井裕貴子	
	21	立教大学	4338	4338	岡野爽	福田光紗	
	22	早稲田大学	4695	4695	田中美紗樹	上園田明真海	清水詩絵
中部	23	愛知大学	3839	4432	山野萌子	松下瑠実	小野彩
	24	愛知工業大学	4638	4638	矢野聡美	兵藤麗奈	吉川祐李
	25	名古屋大学	3875	3875	野竹みちる	吉野花梨	
	26	名古屋工業大学	3806	3806	谷川汐音	加藤稚菜	酒井桃恵
	27	名城大学	3923	3923	大島沙耶	井上恵寧	東松永莉
近畿 北陸	28	金沢大学	4249	4286	矢口文香	横田望乃	
	29	京都大学	4174	4250	角岡あかり	田中陽菜	
	30	同志社大学	4587	4587	續木 茄可	井口 七海	
	31	同志社大学	4404	4589	篠原 璃音	糸川 朝子	
	32	富山大学	4263	4508	九鬼雪花	菅沼香菜	
	33	立命館大学	4538	4538	多田晴香	渡辺小夏	
	34	龍谷大学	4252	4252	北島舞	田中響子	實藤優夏
関西	35	大阪大学	4664	4479	今西ひなの	小島もも	
	36	大阪府立大学	4599	4599	高田陽	植田麻寛	
	37	関西学院大学	4529	4680	池淵砂紀	伊東里菜	
	38	関西学院大学	4500	4594	森重新那	中岡侑萌子	
	39	関西学院大学	4437	4529	藤尾万唯華	仲倉柚衣	
	40	甲南大学	4497	4644	村松叶子	森貴映	
	41	甲南大学	4428	4138	杉浦悠	岩階渚	
	42	神戸大学	4555	4555	中井冴香	山本咲	
	43	和歌山大学	4434	4434	森井愛	山田志保美	仲本桃子
中国	44	広島大学	4194	4244	高田愛梨	住野有理	木戸理歩
九州	45	鹿屋体育大学	4467	4467	川邊 朱里	北林 風花	
	46	九州大学	3622	4522	市川緋那	森ゆり奈	

水域	エントリー NO.	大学名	艇体No	セーラーNo	選手		
					スキッパー	クルー①	クルー②
北海道	1	小樽商科大学	30103	30994	駒谷愛結	原みさと	
	2	北海道大学	30750	30020	吉田郁	河合ふみか	
関東	3	学習院大学	31218	31218	鳥海玲菜	市島杏莉	
	4	首都大学東京	30395	30395	橘美優	佐藤志保	
	5	中央大学	31319	31319	荒木陽菜	谷美月	
	6	東海大学	29528	29528	桑真祐子	米谷真鈴	
	7	東京工業大学	31430	31430	河合亜美	津田南美	
	8	東京工業大学	30868	30868	荻生田汐音	堀越日南子	
	9	日本大学	31561	31561	林佳奈	岡村保乃加	
	10	法政大学	31336	31336	新田そら	松山暁	
	11	明海大学	31115	31115	加藤凡尋	秋岡なおみ	小岩英恵
	12	明治大学	31578	31578	池田樹理	溝口真由	
	13	横浜国立大学	30428	30428	笠井南実	阿左美さくら	原田なつ
	14	立教大学	31498	31498	若泉帆風	河野怜菜	松本佑
	15	早稲田大学	30736	30736	松尾華	小林真菜	
中部	16	名古屋工業大学	31246	31246	園部友香	城井満月	
	17	三重大学	31170	27897	鶏内あゆみ	岩田沙希	
	18	三重大学	28572	28572	山本理未	松田みなみ	木子絢葉
近畿 北陸	19	京都大学	30383	30383	加藤双葉	河村和賀子	
	20	京都産業大学	29423	30803	森彩華	大和久乃	吉田莉奈
	21	同志社大学	31373	30080	三浦 風砂	東田 茉莉瑛	
	22	立命館大学	30576	31392	田中さくら	麻生更紗	
関西	23	関西大学	31085	31085	田代彩子	児玉沙耶佳	
	24	関西大学	31076	31076	増田諒子	渡邊 智世	
	25	関西学院大学	31156	31079	伊藤杏紗	石田穂乃香	俵侑莉
	26	関西学院大学	31079	31500	石川満里奈	尾井恵子	
	27	近畿大学	30995	30995	笹脇青華	玉置咲帆	長谷川彩
	28	甲南大学	30235	30987	木下歩美	大石優	
	29	甲南大学	30234	30969	尾畑美佳	吉田奈央	岩崎加恵子
	30	和歌山大学	30712	31179	亀井明日香	川崎穂香	飯島那月
中国	31	岡山大学	28827	29805	柴田千里	渡邊佳穂	水田葉月
	32	広島大学	30188	30037	伊藤さくら	住吉沙和	大槇望未
九州	33	九州大学	30205	29168	鹿野千尋	成瀬諒花	
	34	西南学院大学	29624	30944	宮田香子	吉岡巳奈	山下真依
	35	西南学院大学	28601	31333	草野天音	井上未結	山根夕佳
	36	福岡大学	30084	30084	鈴木 杏依子	長野 真歩	山内 日和

過去の優勝者

	大会期日	開催地	クラス	学校名	ヘルムスマン	クルー
第1回	平成4年	神奈川県	470	神奈川大学	岡 みち子	竹原 桃代
	10月2日~4日	森戸海岸	スナイプ	神奈川大学	松浦あすか	須藤 奈々・土屋 美希
第2回	平成5年	神奈川県	470	法政大学	山下 美香	池田 祥子
	10月1日~3日	森戸海岸	スナイプ	東海女子大学	服部 美麗	蜂須賀菜津子
第3回	平成6年	神奈川県	470	法政大学	山下 美香	池田 祥子・井元 直子
	9月23日~25日	森戸海岸	スナイプ	名城大学	伊藤由美子	森下友利可
第4回	平成7年	愛知県蒲郡	470	横浜国立大学	山口 陽子	田中嘉生留・岡村 春江
	9月15日~17日	海陽ヨットハーバー	スナイプ	近畿大学	酒井多恵子	磯貝 千里
第5回	平成8年	滋賀県大津市	470	立命館大学	宮崎 奉子	大槻 牧子・鳴尾みどり
	9月27日~29日	ロータリーピア88	スナイプ	滋賀大学	前川真起代	船津夕美子・北野 佳子
第6回	平成9年	神奈川県	470	立命館大学	長広 愛子	山村 愛・瀬下 千恵
	9月26日~28日	森戸海岸	スナイプ	福岡大学	松本 陽子	阿多 香苗
第7回	平成10年	福岡県福岡市立	470	鹿屋体育大学	川野 沙織	水口めぐみ
	9月25日~27日	小戸ヨットハーバー	スナイプ	立命館大学	丸田 杏	高木菜満恵
第8回	平成11年	兵庫県西宮市立	470	立命館大学	山村 愛	野田 直江
	9月17日~19日	新西宮ヨットハーバー	スナイプ	立命館大学	小川 智子	戸田みゆき・矢野麻衣子
第9回	平成12年	神奈川県	470	立命館大学	仲野 照美	伊藤 友紀
	9月22日~24日	森戸海岸	スナイプ	日本大学	近藤 愛	岡田 風美・蓮井かがり
第10回	平成13年	神奈川県	470	日本大学	近藤 愛	高須 智子
	9月22日~24日	森戸海岸	スナイプ	日本大学	蓮井 かがり	岡田 風美
第11回	平成14年	神奈川県	470	日本大学	近藤 愛	高須 智子
	9月14日~16日	森戸海岸	スナイプ	立命館大学	茨木 元子	児玉 弥生・川島 弓奈
第12回	平成15年	神奈川県	470	日本大学	岡田 風美	高須 智子
	9月26日~28日	葉山港	スナイプ	日本大学	蓮井 かがり	板倉 紗里
第13回	平成16年	神奈川県	470	鹿屋体育大学	後藤 梨沙	木下 千史
	9月24日~26日	葉山港	スナイプ	近畿大学	疋田 菜穂子	北野永里子・亀口 佳奈
第14回	平成17年	神奈川県	470	第一経済大学	岩崎めぐみ	田畑和歌子
	9月23日~25日	葉山港	スナイプ	立命館大学	児玉 弥生	関谷 香苗
第15回	平成18年	神奈川県	470	第一経済大学	岩崎めぐみ	宮川 幸子
	9月22日~24日	葉山港	スナイプ	鹿屋体育大学	原田 小夜子	松波 衣緒
第16回	平成19年	神奈川県	470	日本大学	平井 恵子	板倉 広佳
	9月22日~24日	葉山港	スナイプ	関西学院大学	増川 美帆	菊谷 友理
第17回	平成20年	愛知県蒲郡	470	明治大学	松濱 沙耶	中島 慶・高野美穂
	9月13日~15日	海陽ヨットハーバー	スナイプ	関西学院大学	増川 美帆	大内 聡子
第18回	平成21年	愛知県蒲郡	470	立命館大学	伊藤 淳子	松永 貴美
	9月11日~13日	海陽ヨットハーバー	スナイプ	鹿屋体育大学	原田 小夜子	岡 美江・山田 舞波
第19回	平成22年	神奈川県	470	日本経済大学	徳重 エリカ	安田 真世
	9月18日~20日	葉山港・葉山港沖	スナイプ	関西学院大学	増川 美帆	山本 千紗・大内 聡子
第20回	平成23年	神奈川県	470	関西学院大学	松下 結	森本 起代・陶山実香子
	9月23日~25日	葉山港・葉山港沖	スナイプ	日本大学	稲垣 奈巳	渡邊佳菜梨・古屋 佳帆
第21回	平成24年	神奈川県	470	早稲田大学	山口 祥世	谷口 柚香
	9月21日~23日	葉山港・葉山港沖	スナイプ	関西学院大学	檜原 梨乃	末繁 まゆ・山口ほのみ
第22回	平成25年	愛知県蒲郡	470	関西大学	後藤 沙織	岡崎 文音
	9月21日~23日	海陽ヨットハーバー	スナイプ	日本大学	持田 由美子	稲垣 美穂
第23回	平成26年	神奈川県	470	関西学院大学	松浦 朋美	関 友里恵
	9月21日~23日	葉山港・葉山港沖	スナイプ	日本大学	持田 由美子	上田 育美
第24回	平成27年	神奈川県	470	関西学院大学	松浦 朋美	関 友里恵
	9月19日~21日	葉山港・葉山港沖	スナイプ	慶應義塾大学	阿部 七海	窪田 明莉
第25回	平成28年	神奈川県	470	日本経済大学	山本 佑莉	牟田 琴美
	9月17日~19日	葉山港・葉山港沖	スナイプ	日本大学	池田 紅葉	林 佳奈
第26回	平成29年	神奈川県	470	慶應義塾大学	村瀬 海里	皆川 綾菜
	9月15日~17日	葉山港・葉山港沖	スナイプ	日本大学	池田 紅葉	林 佳奈
第27回	平成30年	愛知県蒲郡	470	関西学院大学	小泉 志織	本田 有咲
	9月21日~24日	海陽ヨットハーバー	スナイプ	立命館大学	側田 晴菜	森嶋 鈴香

総合優勝

第6回	福岡大学	第7回	立命館大学	第8回	立命館大学
第9回	日本大学	第10回	日本大学	第11回	法政大学
第12回	日本大学	第13回	法政大学	第14回	法政大学・立命館大学
第15回	鹿屋体育大学	第16回	日本大学	第17回	立命館大学
第18回	早稲田大学	第19回	関西学院大学	第20回	関西学院大学
第21回	関西学院大学	第22回	日本大学	第23回	関西学院大学
第24回	慶應義塾大学	第25回	日本大学	第26回	日本大学
第27回	関西学院大学				

最優秀賞選手賞

第1回	第一経済大学	岩崎 めぐみ・宮川 幸子	第2回	日本大学	平井 恵子
第3回	日本大学	栗栖 佐和	第4回	明治大学	村濱 沙耶
第5回	日本福祉大学	小久保千秋	第6回	東京海洋大学	船原 桃子
第7回	関西大学	濱田 華帆	第8回	明海大学	川戸 志織
第9回	東北大学	山本 琴未	第10回	中央大学	岸 裕花
第11回	早稲田大学	市川 夏未	第12回	大阪大学	中村 葵
第13回	早稲田大学	松岡 嶺実			

 伊藤園
自然が好きです。

鮮度たっぷり。

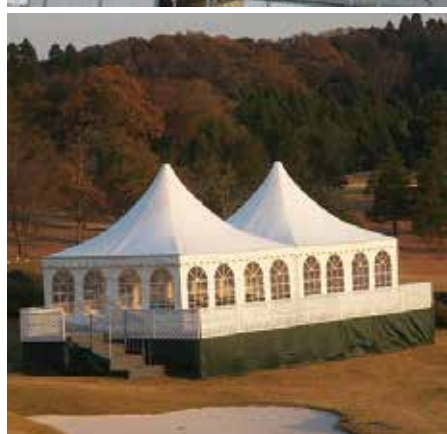


*生産者の方々と畑から育て鮮度にこだわった専用茶葉を含む良質な国産茶葉100%使用 空容器の散乱防止・リサイクルにご協力ください。

お客様とともに 前へ

一歩ずつ、まっすぐに。

明治商工は、安心な現場づくりの
パートナーを目指し進み続けます。



建設仮設資材
明治商工株式会社

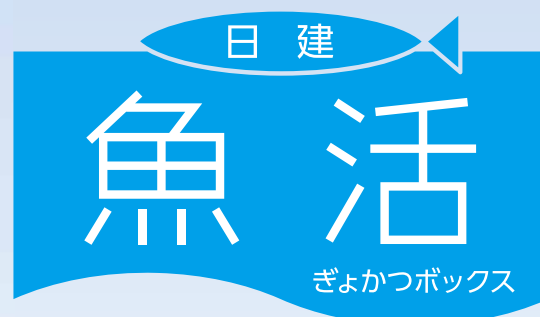
[本社] 〒143-0006 東京都大田区平和島6-1-1
東京流通センター センタービル3階
TEL 03-6404-4446 FAX 03-6404-4447
URL <https://www.meijishoko.com>

— CO2睡眠で活魚輸送の未来を変える —

過密**活魚**輸送を実現!!



日建魚活ボックス
本商品はレンタル品です。



魚活ボックスの便利な使い方!!

1 CO²による低活性化輸送で過密状態でも 24時間の長時間輸送に対応!

低活性化により、小型でありながら収容密度25%以上の過密・24時間の長時間輸送を行えます。
もちろん少量、近距離の場合はCO₂を使わずそのままの配送が可能です。

2 少量配送、大量配送どちらにも対応可能。

バッテリー、エアレーション機能等搭載のため1台から輸送が可能。水量を調整すれば2t車から運ぶことが出来ます。
水槽1台で魚の収容量約300kgです。また大型車両に8台積載すれば、大型活魚車と同等の量を輸送できます。

3 一時畜養の水槽としても利用可能。

AC100Vコンセントも付属しているため、積み込み前のバッテリー消費節約だけでなく、畜養槽として常時装置を稼働させることも可能です。

未来のお得。 エコロジー。

ヨットレースには、
シーマンシップ。
エコロジーには、
賢いレンタル。
未来社会の環境は、
レンタル・エコロジーで、
はじまり、始まり。



仮設機材のリース・レンタル

日建片桐リース株式会社

〒004-0015 札幌市厚別区下野幌テクノパーク2-1-14

☎011-807-6555 (代表)・FAX011-807-6556

<http://www.katagiri-g.com>

ISO9001 認証



MSA-QS3674
札幌支店
北海道本社工場

私たちに風を作ることはできないけど
一生懸命がんばってる君たちがいるから
何もせずにはいられない。

海

は、青春の航跡。

 **日建・レンタコムグループ**

日建リース工業株式会社
日建レンタコム株式会社・日建片桐リース株式会社